



ぶんこだより

子どもたちと、もっともっと絵本を楽しんでもらいたいから…

4 APR
2026

「バーバラ・クーニー」

バーバラ・クーニーは、コルデコット賞の「にぐるまひいて」「チャンティクリアときつね」などとは別に、クリスマスについてのいくつかの絵本で、とても身近でした。



「クリスマス人形のねがい」
(著：ルーマー・ゴッデン、画：バーバラ・クーニー、訳：掛川恭子／岩波書店、2001年)



「おもいででのクリスマスツリー」
(著：グロリア・ヒューストン、画：バーバラ・クーニー、訳：吉田新一／ほるぷ出版、1991年)



「とってもふしぎなクリスマス」
(著：ルース・ソーヤ、画：バーバラ・クーニー、訳：掛川恭子／ほるぷ出版、1994年)

上記3冊がそれで、クリスマスの頃になると、どれか1冊を必ず子どもたちと楽しむことができました。いずれも、物語としてもすぐれているのですが、それを更にいい物語にしているのが、バーバラ・クーニーの、丁寧に丁寧に描き込まれた絵です。主人公たちの動作、振る舞いの細部まで描き込むのはもちろん、他の登場人物（動物たち）、背景も、全体になって物語を構成する、それがバーバラ・クーニーの絵本のように思えます。

そんな、バーバラ・クーニーの絵本で、ぼんやり見過ごしていたのが、「ちいさな曲芸師バーナビー」(著・絵:バーバラ・クーニー、訳:末盛千枝子/現代企画室、2016年)です。およそ、8000冊のこうどうぶんこの絵本の、50年の歴史で、そのかなりは紹介されたのを参考に、手に取って読んで確かめてから並べることになったはずですが、そうではないと言うか、ぼんやりながめていて、たまたま手に取って見たら、読んではないものもあります。



その一冊が、「ちいさな曲芸師バーナビー」でした。しかも、それも、敢えて分類すれば、クリスマスの絵本だったことです。バーナビーは、曲芸以外何もできませんでした。それだけが曲芸師のお父さんから教えてもらったことでした。お母さんは早く亡くなっていて、更にお父さんが亡くなった時、バーナビーは10歳でした。「バーナビーは、生きていくために、お父さんが教えてくれたとおりに曲芸をしました。市場がたつ日には、すり切れた敷物を広場に広げ、その上で一生懸命に跳んだり、はねたり、踊ったり、手品をしたりしました」。それらのことを描く、バーバラ・クーニーの絵は、その広場のこと、広場で繰り広げられる人々の生活の事が丁寧に描き込まれています。すっかり溶け込むようそこで曲芸するバーナビーも、その曲芸も丁寧に描き込まれているのです。

そして、この物語が伝える何よりなのは、しっかりした、伝えたいこと、伝えるべきことが、伝えたい相手、たとえば子どもたちへの「使徒」として描かれていることです。あるいは、バーナビーが気付いたことです。

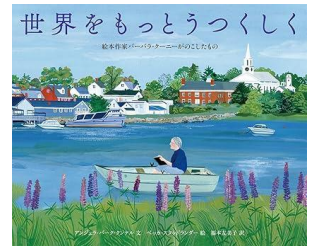
「やってみましょうか？それならできるんです。ぼくにできるたったひとつのことを、このチャペルで、マリアさまと赤ちゃんのイエスさまのためだけにやります。ほかの修道士たちが、詩篇の祈りや賛歌を歌ってお祈りするかわりに、ぼくは宙返りをしてお見せします」

そこの、その場所に、その時に必ずしもふさわしくなくても、その人に(子どもたちに)「私の今、世界の今」があるなら、その人(子どもたち)にとって、それこそが存在の意味なのです。それらのことを、絵本の、子どもたちの物語として、バーバラ・クーニーは、「ちいさな曲芸師バーナビー」で描いているように思えました。

「ちいさな曲芸師バーナビー」は、2025年度に、教会学校で卒業して中学に入学する子どもたちへのプレゼントになりました。

「世界をもっとうつくしく」(著:アンジェラ・バーク・クンケル、画:ベッカ・スタッドランダー、訳:福本友美子/ほるぷ出版、2025年)は、そんなバーバラ・クーニー

の人生と魅力を紹介する「伝記絵本」です。訳者あとがきで、少し詳しくバーバラ・クーニーのことが書かれていますが、「さいごに」の文章を寄せている、バーナビー・ポーターの文章は、いい絵本をいっぱい描いて残した、バーバラ・クーニーのことをよく語っています。



「…うつくしく生きること、広い心をもつこと、こまっている人がいたら助けること…そして笑顔で幸せに生きるために、自分の人生でやりたいと思うことがあれば、どんなことでもうまくできるように努力すること、笑顔と幸せはそれだけで、世界をもっとうつくしくするのですから」

と書いているバーナビー・ポーターは「…わたしは幸運なことにバーバラ・クーニーをだれよりもよく知っています。彼女は半世紀以上にわたり、わたしの母だったのですから」なのです。

と、「…私はもし次に生まれてくる子どもが男の子だったら、この曲芸師とおなじ名前をつけようと思いました」と書いているのは、「ちいさな曲芸師バーナビー」のまえがき、「この本についての」バーバラ・クーニーの文章です。

ゆるやかに、そして子どもたちの心に届く、絵本の仕事をしたバーバラ・クーニーの、「人生と魅力を紹介する伝記絵本」が、「世界をもっとうつくしく」（アンジェラ・バーク・クンケル文、ベッカ・スタッドランダー絵、ほるぷ出版）です。これには、訳者あとがきとは別に「さいごに」と文章が付け加えられています。「…ただ花を植えたりと、きれいな絵本をかいたりするだけではなく、それ以上のことを意味していました。」「…母によってそれは、うつくしく生きること、どんな人にも動物にもやさしく親切であること、広い心をもつこと、身のまわりの世界を大切にすること、こまっている人がいたら助けること…そして笑顔で幸せに生きるために…どんなことでもよくできるように努力すること…」笑顔と幸せはそれだけで、世界をもっとうつくしくするのですから、「さいごに」で、これを書いているのは、バーナビー・ポーターです。

そう、もし、もう一人男の子が生まれたら、「バーナビー」にするとバーバラ・クーニーが「ちいさな曲芸師バーナビー」で書いていた、あのバーナビー、バーバラ・クーニーの次男です。

バーバラ・クーニーの新しい絵本で、2025年に翻訳出版されたのが「白さぎ」（作：セオラ・オーン・ジュエット、画：バーバラ・クーニー、訳：石井桃子／のら書店、2025年）です。「白さぎ」には、田中潤子が、セオラ・オーン・ジュエット、バーバラ・クーニー、そして訳者の石井桃子について、詳しく必要な解説を書いています。



絵本とともに

～絵本とともに、子どもと歩む日々～



「ルピナスさん 小さなおばあさんのお話」

(著：バーバラ・クーニー、訳：掛川恭子／ほるぷ出版、1987年)



「ルピナス」という花をご存じですか？ピンク、青、むらさき、それに白と、パステルカラーぞろいで、名前の美しさそのままを表したようなきれいな花を咲かせます。

ルピナスさんと言われる小さなおばあさんは、幼い頃はアリスという名前でした。アリスは、大好きなおじいさんとこんな会話をしました。

「大きくなったら、わたしもおいくにいく。そして、おばあさんになったら、海のそばの町にすむことにする」

「それはけっこうだがね、アリス、もうひとつ、しなくてはならないことがあるぞ」

「なんなの？」

「世の中を、もっとうつくしくするために、なにかしてもらいたいのだよ」

「いいわ」

こうして、大きくなったアリスはおじいさんとの約束に取りかかるのです。「世の中を、もっとうつくしくするために、なにかしなくては」アリスはこの言葉を胸に人生を歩いていきます。なんて尊い言葉なのでしょう。一人ひとりできることは違って、それぞれが「世の中が美しくなるように」と心に想うことで、ルピナスの花のような美しいことにつながっていくことなのでしょう。

「チャンティクリアときつね」

(文・画：バーバラ・クーニー、訳：ひらのけいいち／ほるぷ出版、1975年)

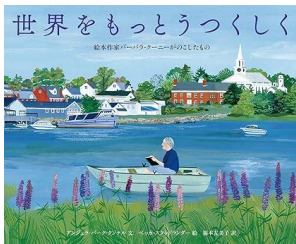


英国の昔話です。このようなきつねとおんどりとの知恵比べは、英国国民が古くから愛してきた民話パターンの一つだそうです。この絵本で目を引くのは、何と言ってもバーバラ・クーニーの描くチャンティクリア（おんどり）ときつねの世界でしょう。赤、青、黄色、緑、黒の5色で表された世界は、発行から50年以上たった今でも全く色あせることはありません。「チャンティクリアのときかは上等のサンゴよりも赤く、くちばしは宝石のように黒く、足は瑠璃のように青々と光っています。つま先はユリの花よりも白く、羽は金色に光り輝いているのです。」この文章と絵がぴったりとかみ合っていて、チャンティクリアの姿は一瞬にして、見た人の目と心に焼き付けられるでしょう。話に出てくる、チャンティクリアが、めんどりのポートレットに「しっかりしなさい！」と背中を押される場面や、チャンティクリアときつねが知恵比べをする場面は、まるで人間の世界そのもの！とてもおもしろかったです。

バーバラ・クーニーは、この作品で1回目のコールデコット賞を受賞しました。

「世界をもっとうつくしく 絵本作家バーバラ・クーニーがのこしたもの」

(著：アンジェラ・バーク・クンケル、画：ベッカ・スタッドランダー、訳：福本友美子／ほるぷ出版、2025年)



先に紹介した2冊の絵本もちろんそうなのですが、クーニーの描く世界は、緻密で色鮮やかで、いつのまにかその絵に見入ってしまい、なかなかページをめくり進めることができません。どうやらその秘密は、クーニーが絵描いてきた過程にあるようです。描くことを「仕事」として始めたバーバラですが、それには「白と黒のみ」「細かく・きちんと」

「間違いはゆるされない」などの「決まりごと」が多くあったそうです。こうした「決まりごと」を破り、自分のために絵を描いた絵本が『チャンティクリアときつね』です。あのチャンティクリアの鮮やかさはこのようにして生まれたのだと思うと、非常に納得がいきました。「どうだい？俺の姿、すてきだろ？」というチャンティクリアの声が聞こえてきそうです。

今月のつくって!あそぼう!

新聞紙でバックをつくろう

はじめてでも簡単にできる
「新聞バッグ」



【用意するもの】

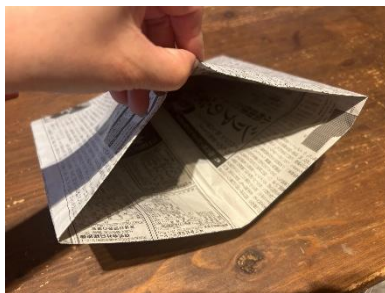
新聞紙 (全面1枚、1/4面 2枚、1/16面 2枚)、のり、はさみ

① まず、本体からつくります。(全面1枚)

新聞紙1枚を広げ、下から5cmほど折る。その線に合わせて、全体を半分に折る。



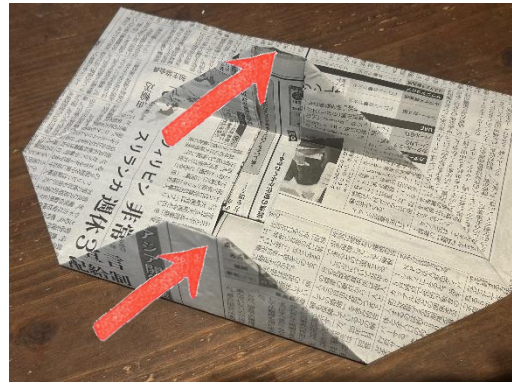
② 片方の端を2cmほど折って、のりで貼り合わせて、輪にする。 のりで貼り合わせる



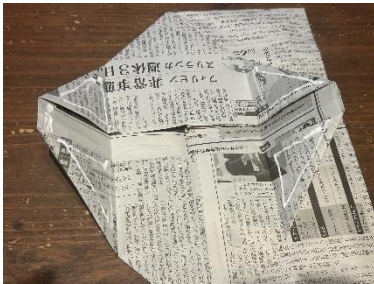
③ 全体を半分に折る。



- ④ 底になる部分をつくります。
図のように追っていきます。



1cm ほど重なるように折る



のり（白色）を塗って、順番に貼る。

- ⑤ 持ち手をつくります。（1/4 面 2 枚）

角から巻き、最後に糊付けして棒を 2 本作る。（長さは、最後にお好みにカット）



- ⑥ 1/16 面 2 枚用意して、図のように半分に折って、棒を折り曲げ、のり付けする。
同じものを 2 つ、つくる。

- ⑦ つくった持ち手部分を、バッグの内側にのりで取り付ける。



今月のわらべうた



♪ねんねこ小山の白犬コ
(岩手の子守唄)

ねんねこ小山の白犬コ
一匹ほえれば、みな吠える
みんなの犬コが、どこさ行った
あの山越えて、里さ行った
里の土産に、なにももらった
びいびい、からから、風車

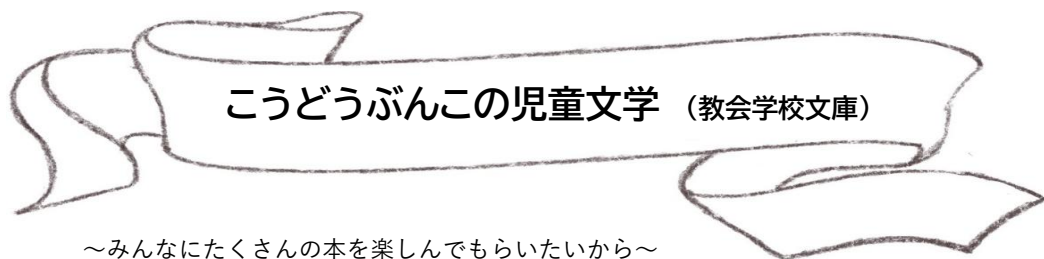


「おはなしのろうそく19」(東京子ども図書館編)より

♪げろげろがっせん



げろげろ がっせん ごめん や す あとから よいどが ぼつてく
る もんをし め た なん もんで とおす さん もんで
とおす もう ちつと おまけ おまけは ならぬ じゃんけん ぽん



「みずうみにきえた村」

(文：ジェーン・ヨーレン文、画：バーバラ・クローニー、訳：掛川恭子／ほるぷ出版、1996年)



作者の家のすぐそばの「クアビン貯水池」はニュー・イングランドでもっとも大きな淡水湖のひとつで、手つかずの自然に恵まれる素晴らしい地域。けれど昔はスウィフト川という川が流れ、その谷間には小さな町や村がありました…。1927年から1946年の間、家という家、それ以外のすべて、人間が生きた証となるものすべてが水の底に沈んでしまったのです。ダム建設の為に。大量の水を必要とする都市では同じようなことが世界中で起きています。どれも取引の結果生まれるもの

ですが、文句なしの条件で成立したものは一つもないでしょう…。

この物語は、作者の体験・実話をもとに、主人公シェリー・ジェーンの目線で語られています。主人公はお友達と手作りの竿でマス釣ったり、お墓でピクニックをしたり。夏の夜は、カエデの木の下で寝袋にくるまり友達と眠りに付く…。冬にはカエデの樹液を舐めてみたり…。自然の中で、自然とともに、おもいきり深呼吸をしながら、子どもらしく最高の遊びを楽しむ毎日。そこへ音もなく、100キロも離れたボストンのためのダム建設の話が持ち上がるのです。もっといい暮らしと引き換えに…。誰にとってもっといい暮らしなのか…。考えさせられる場面です。そのまま建設は進むのですが、印象的だったのが、お墓の移動。大人たちの判断で、手間を少しでもかけないようにと、インディアンの墓はその場に残るのですが、「インディアン達が聖なる地にのこれてよかった」と主人公は言うのです。まったくの共感と、残るからいいというものではないと感じる憤りや悲しみも込み上げてくるシーンです。村人はバラバラに引っ越していきます。引き裂かれるように…。切ない。主人公は大人になり、父とダムと化したその場所で、ボートに乗ります。暗い湖畔で、湖の底の昔仲間や家族と幸せに過ごした時間を感じながら…。

実は、我が家がバーバラ・クーニーの絵に初めて出会ったのはこの絵本でした。強烈に鮮明に、静かに強く…。主張しすぎず控えめだけど、この絵によって、物語がより迫ってきます。

時代が変わっても、人間の勝手は止まるどころか加速していると感じざるを得ません。立ち止まり、考えるきっかけを間違いなく与えてくれる一冊です。



こうどうぶんこ によろこそ

「こうどうぶんこ」は、およそ 50 年前、石井桃子の「子どもの図書館」（著：石井桃子／岩波書店、1965 年）に促されるように、教会礼拝堂の隅っこに 2 本の本棚に絵本を並べて始めました。

始めてみて、何よりも驚いたのは、読み聞かせする大人と絵本に、いわば「我を忘れて」向かってくることでした。子どもは、絵本・本が大好きなのです。

「こうどうぶんこ」は、「絵本・本好き」の子どもたちの力で続いてきました。

「こうどうぶんこ」によろこそ！

「こうどうぶんこ」は、集まってくる子どもたちの絵本と児童文学の「お部屋」です。



1、会員になってください

「こうどうぶんこ」の会員になってください。登録だけで、入会金・会費は不要です。2025 年より毎週水曜日（不定期で、お休みの時もあります）。

借りるのも、返すのも、午後 3 時～4 時 45 分まで。

2、ぶんこの部屋

「こうどうぶんこ」は、絵本の貸し出し（読み聞かせ）、朗読、わらべうた（マザーグース）、なぞなど、言葉であそぶ時間です。

3、1 度に借りられる冊数

1 人につき 5 冊まで。

4、貸出期間

2 週間

5、利用登録

本を借りられる方は、お名前、住所、連絡先などの登録をしてください。

6、お問合せ

〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

西宮公同幼稚園内 こうどうぶんこ

TEL : 0798-67-4691

FAX : 0798-63-4044

MAIL : koudou@gamma.ocn.ne.jp





こうどうぶんこ



日時：毎週水曜日 15時～16時45分

場所：ぶんこの部屋（西宮公会教会付属 西宮公会幼稚園）



May 5 2026

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3 <small>真田出陣日</small>	4 <small>みどりの日</small>	5 <small>こどもの日</small>	6 <small>緑の日</small>	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

June 6 2026

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

編集後記

私たちが編集・発行しています。ご意見や感想、お聞きに
なりたいことがありましたらお声かけください。

菅澤・濱・田場・金澤